

2018年（平成30年）3月期 第3四半期 株主通信

▼ 株主の皆様へ ▼ Topics ▼ 事業別概況



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
「株主通信2018年冬号」をご高覧いただくにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当社グループの2018年3月期第3四半期連結累計期間（2017年4月～12月、以下「当期間」）の概況をご報告いたします。

当期間における当社グループの連結売上高は7,502億円（前年同期比7.2%増）、営業利益は290億円（前年同期比15.6%減）の増収減益の決算でした。

売上高は、全ての事業セグメントで増収となりました。営業利益は、前年に計上した一過性の特許関連収入78億円の影響もあり減益でした。

事業セグメント別では、オフィス事業が、北米、中国の堅調を維持し、プロフェッショナルプリント事業も中国でのデジタル印刷装置の販売の増加や北米を中心に産業印刷が堅調であったことにより共に増収でした。両事業の営業利益は累計で減益となりましたが、第2四半期からの採算性改善傾向は継続しています。ヘルスケア事業は、北米での主力製品の販売拡大がけん引して増収増益でした。産業用材料・機器事業は、計測機器ユニットが当期間を通して好調を維持し大幅な増収増益となりました。

また、“個別化医療”の本格的事業化に向けた、米国のアンブリー・ジェネティクス社とインヴィクソ社の買収が2017年10月および11月にそれぞれ完了したことで、当社独自の蛍光ナノイメージング技術とこれら2社の強みを融合して将来の収益に貢献する新しい事業の育成をさらに加速していきます。

通期予想につきましては、前提となる為替レートでユーロを10円円安方向の130円に見直しました。売上高は1兆円、営業利益は480億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は310億円を据え置きます。

株主の皆様への利益配分につきましては、第2四半期末配当は、1株当たり15円をお支払いいたしました。期末配当の1株当たり15円、年間配当30円の予定には変更はありません。

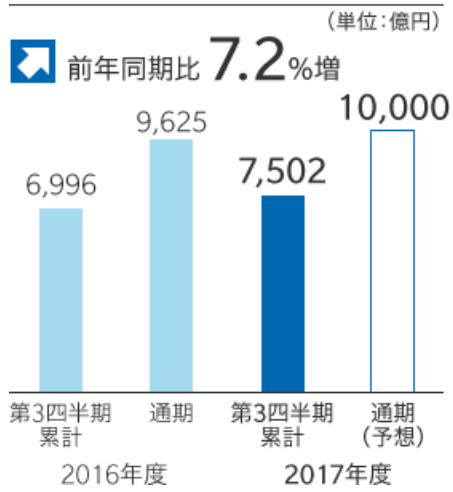
通期の目標を達成すべく、全社一丸となって邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

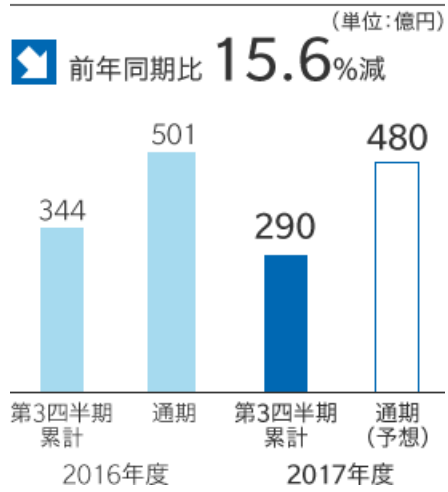
2018年2月
コニカミノルタ株式会社
代表執行役社長 兼 CEO

山名昌衛

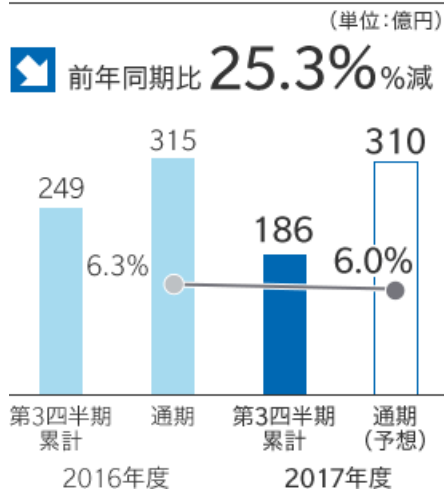
売上高



営業利益



親会社の所有者に帰属する当期利益/ ROE



TOPICS

「日経Smart Work大賞2018 大賞」を受賞



[> プレスリリースを見る](#)

CDPより最高評価の「気候変動Aリスト」企業 に2年連続で認定



[> プレスリリースを見る](#)

イノベーション創出のための兼業・副業解禁、 ジョブ・リターン制度導入

[> ニュースリリースを見る](#)

オフィスの高度な印刷業務を効率 化するフラグシップ

A3カラー複合機

「bizhub C759シリーズ」

3機種を発売



[> プレスリリースを見る](#)

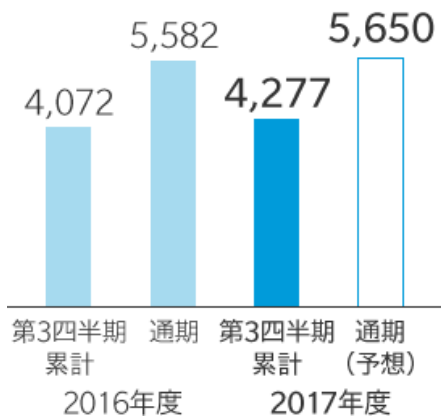
[> 製品情報を見る](#)


事業別概況

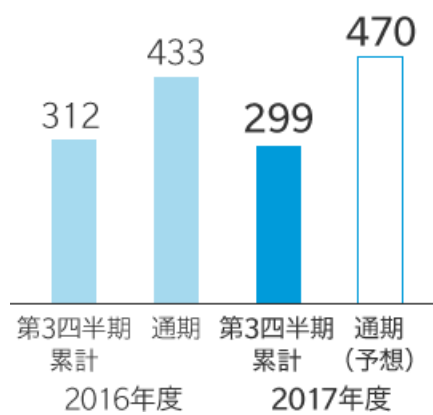
1. オフィス事業

A3複合機の販売台数は、カラー機、モノクロ機ともに前年同期比で増加し、特に新製品のカラー高速機は大きく伸ばしました。地域別では、北米で好調を維持し、中国は前年同期比で大幅に販売台数が増加しました。また、ITサービスも欧米において前年同期比で増加となりました。

売上高 (億円)  前年同期比 **5.0%** 増




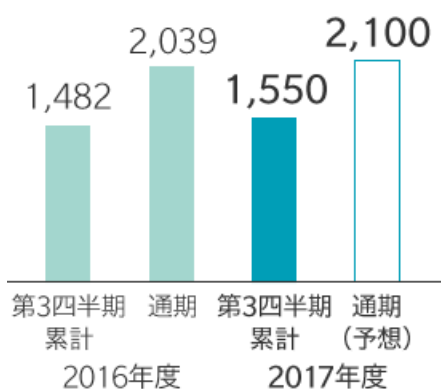
営業利益 (億円)  前年同期比 **4.3%** 減




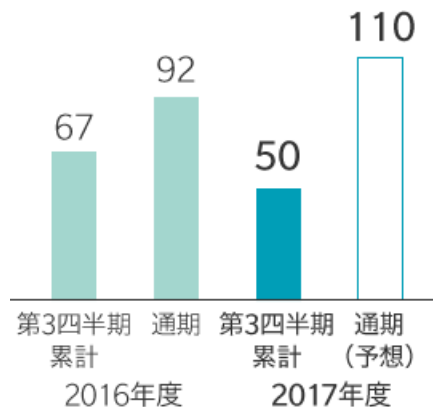
2. プロフェッショナルプリント事業

中国でのプロダクションプリント機の販売が増加し、北米を中心に産業印刷が堅調でした。更に、当社独自機能の品質最適化ユニット「IQ-501」を投入したことで、市場における優位性が向上しました。

売上高 (億円)  前年同期比 **4.6%** 増



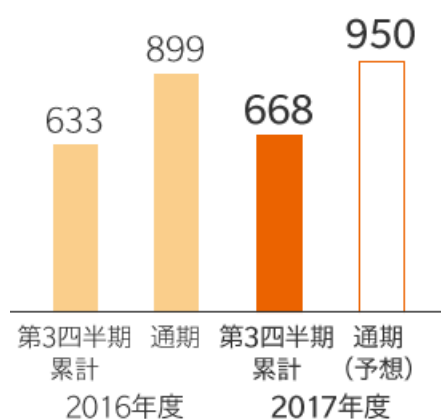
営業利益 (億円)  前年同期比 **25.4%** 減



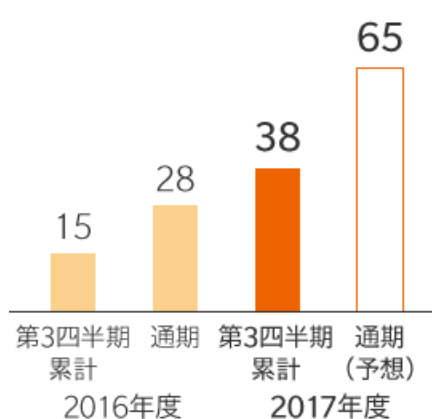
3.ヘルスケア事業

デジタル製品では、DRがX線装置メーカーとの協業を強化したことで米国を中心に販売数量が増加しました。超音波製品は、日本での販売好調を維持し、中国においても販売数量が増加しました。医療ITサービスでは、米国での販売増が収益に寄与し、保守サービスも順調に拡大しました。

売上高 (億円)  前年同期比 **5.6%** 増




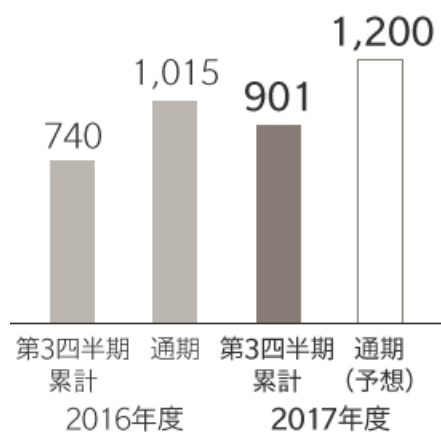
営業利益 (億円)  前年同期比 **157.3%** 増




4.産業用材料・機器事業

機能材料は、液晶TVの大画面化を背景に、TACフィルムの高付加価値製品比率が増加し、価格圧力を受けながらも前年同期並みの売上高を確保しました。計測機器は、ディスプレイパネル分野で新たな顧客を獲得し、大幅に増収となりました。

売上高 (億円)  前年同期比 **21.7%** 増



営業利益 (億円)  前年同期比 **5.0%** 増

